

猪名川狭窄部上流の目標規模の再検討について

1. これまでの経緯

○基礎案における狭窄部上流浸水被害に対する目標

狭窄部上流の浸水被害に対しては、下流堤防の破堤危険性を増大させるような狭窄部の開削は当面できないことから、既往最大規模の洪水を対象に狭窄部上流における対策を検討する。

長期的には、浸水被害を軽減する土地利用誘導等の実施が必要であるが、当面の被害軽減処置としては、既設ダムの治水強化、並びに流域内貯留施設の整備を検討する。

(「淀川水系 河川整備基礎案 平成16年5月」p24より抜粋)

○猪名川狭窄部上流の浸水被害に対する目標

猪名川における狭窄部上流浸水被害の目標洪水は、猪名川代表4洪水のうち氾濫シミュレーションによる狭窄部上流浸水被害が最大となる昭和35年8月洪水としました。

(氾濫シミュレーションは当時の雨が現在の土地利用状況、現行ダム操作において降った場合を想定)

2. 目標規模の再検討

これまで既往最大の昭和35年8月洪水を目標に狭窄部上流の浸水被害について検討してきました。しかし、昭和35年8月洪水は、他の洪水と比べ特に大きな日雨量を示し、かつ1山目が猪名川上流域に、また2山目が一庫大路地川流域に偏って降った特異な降雨パターンでした。

昭和35年8月洪水の雨量(小戸地点374.6mm/日)は、他の狭窄部上流と比較しても大きく、この洪水を目標規模とするのは過大であるという意見もあり、今後、目標洪水の見直しを行うこととしました。

なお、猪名川流域の代表的な洪水の降雨量、流量は表-1のとおりです。

表-1 猪名川流域の代表的な洪水

洪水名	小戸地点流域 平均日雨量 (mm/日)	計算ピーク流量		銀橋地点計算ピーク 流量(小戸地点流 域平均日雨量) 順位	狭窄部上流浸水 被害想定被害額 (億円)
		銀橋地点 (m ³ /s)	小戸地点 (m ³ /s)		
S28.9	148.3	842	1,098	4(4)	1
S35.8	374.6	1,628	1,795	1(1)	633
S42.7	182.0	875	1,249	3(2)	1
S58.9	136.0	1,015	1,274	2(8)	71